

第51回定時株主総会招集ご通知の補足資料

インターネット開示事項

1. 事業報告関係
2. 連結株主資本等変動計算書
3. 連結注記表
4. 株主資本等変動計算書
5. 個別注記表

〔 上記資料は、会社法施行規則第133条第3項ならびに会社計算規則第133条第4項および同第134条第4項に基づくものです。 〕

ファナック株式会社

インターネット開示事項

1. 事業報告関係

(1) 当社の役員に関する事項

責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役である佃和夫、今井康夫、小野正人の3氏および社外監査役である住川雅晴、原田肇、横井秀俊の3氏と、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額としております。

(2) 会計監査人の状況

① 会計監査人の名称 EY新日本有限責任監査法人

② 当期に係る会計監査人の報酬等の額

(イ) 当社が支払うべき会計監査人としての報酬等の額 42百万円

(ロ) 当社および当社の子会社が会計監査人に支払うべき
金銭その他の財産上の利益の合計額 42百万円

- 注記
1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておりませんので、(イ)の金額はこれらの金額を合計しております。
 2. 当社の海外子会社は、当社の会計監査人以外の監査法人による監査を受けております。
 3. 会計監査人の報酬等について監査役会が同意をした理由
監査役会は、取締役、社内関係部署および会計監査人から必要な書類を入手し報告を受けるほか、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、前期の監査計画・監査の遂行状況、当期の報酬見積の相当性等を確認した結果、会計監査人の報酬等について、合理的な水準であると判断し、同意いたしました。

③ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社は、会社法第340条に定める監査役会による会計監査人の解任のほか、原則として、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難と認められる場合、監査役会の決議に基づき、会計監査人の不再任を株主総会に提案いたします。

(3) 業務の適正を確保するための体制

当社が業務の適正を確保するための体制として取締役会において決議した内容の概要は次のとおりであります。

① 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

社内規程に従い、取締役の職務の執行に係る情報を記録、保存する。取締役および監査役は、常時これらの情報を閲覧できるものとする。

② 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、事業の継続性、企業価値の向上、企業活動の持続的発展を阻害するおそれのあるリスクに対処するため、リスクマネジメント委員会およびリスクマネジメント規程を設け、取締役会の監督のもと、適切なリスクマネジメントを行う。さらに、代表取締役社長直轄の内部監査部が、リスクマネジメントの状況について内部監査を行う。

③ 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

以下の経営システムを用いて、取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保する。

- ・ 取締役および主要な使用人を構成員とする各種主要会議における重要事項の審議
- ・ 原則として月1回以上開催される取締役会における重要事項の承認と決算等の報告

④ 当社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

取締役および使用人に対し、法令および定款、その他の社内規定に関する教育を実施することにより、取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保する。また、反社会的勢力とは関係を持たな

いとの基本方針を取締役および使用人に周知徹底するとともに、反社会的勢力からの不当な要求に対しては、弁護士、警察等の社外の専門家や関係機関と連携し組織的に対応する。

⑤ 次に掲げる体制その他の当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

イ) 当社の子会社の取締役の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

ロ) 当社の子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

ハ) 当社の子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

ニ) 当社の子会社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社は、当企業集団に適用されるグループ行動規範の周知徹底等により、当企業集団におけるコーポレートガバナンスの充実に努める。子会社の経営上の重要事項に関しては、『ファナックグループ会社規程』に基づき、当社の事前承認または当社への報告を求める。また、各子会社がそれぞれ独自に適正で効率的な経営の推進に努めることとする一方で、当社は親会社としてグループ全体のリスクマネジメントやコンプライアンスの実効性確保を図ることを目的として、適宜、内部監査部門を含む関係部署にて、子会社に対する指導・監督を行う。

⑥ 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制

必要に応じ、監査役の職務を補助すべき使用人を置く。

⑦ 次に掲げる体制その他の当社の監査役への報告に関する体制およびその他当社の監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

イ) 当社の取締役および使用人が当社の監査役に報告をするための体制

ロ) 当社の子会社の取締役、監査役および使用人またはこれらの者から報告を受けた者が当社の監査役に報告をするための体制

第③項に記載した取締役会および各種主要会議に、監査役が出席することで、取締役および使用人と、経営に必要な情報を共有する。また、当社および子会社の取締役および使用人は法令・定款に違反する重大な事実または会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合には、速やかに監査役に報告するものとする。

⑧ 第⑦項の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

第⑦項の報告をした者の監査役への情報提供を理由とした不利益な処遇は、一切行わない。

⑨ 当社の監査役の職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払等の請求をした場合は、当該監査役の職務の執行に必要なと認められた場合を除き、これに応じる。

(4) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

① コンプライアンス体制

当社は、「企業の永続性・健全性は『厳密』から生まれる」、「組織の腐敗、企業の衰退は『不透明』から始まる」との認識のもと、この『厳密と透明』を基本にした「ファナック役員社員行動規範」を設け、周知することで、コンプライアンスの意識向上に努めています。また、社員等が不利益を被る危険を懸念することなく通報できる内部通報の仕組みを設けています。

② リスクマネジメント体制

当社は、リスクマネジメント委員会を設置し、事業の継続性、企業価値の向上および企業活動の持続的発展を阻害するおそれのあるリスクの洗い出し、評価等を行っています。また、リスクマネジメント委員会で議論した内容については、社外取締役および社外監査役と共有するなどして、リスクマネジメントの実効性確保に努めています。

③ グループ会社の管理

子会社の経営上の重要事項に関しては、『ファナックグループ会社規程』に基づき、子会社は当社への事前承認を求めることまたは当社への報告を行うこととしています。また子会社についても「ファナック役員社員行動規範」の適用対象とし、その内容を各社の役員社員に周知することで、コンプライアンスの意識向上に努めています。その他、子会社の社員等が不利益を被る危険を懸念することなく通報できる制度を、子会社に順次導入しています。

④ 取締役の職務執行

取締役会が現場に即した監視・監督機能を果たせるよう、業務の執行を行う取締役は、正確でタイムリーな現場の情報を取締役会に開示・説明することとし、取締役会における審議が理論に終わらず、建設的な内容となるよう努めています。

⑤ 監査役の職務執行

監査役は、重要会議を含む様々な会議に出席するなどして、必要な情報を収集し、監査業務を効率的に行っています。

2. 連結株主資本等変動計算書

(自 2019年4月1日
至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	69,014	96,265	1,380,439	△91,040	1,454,678
会計方針の変更による 累積的影響額			△63		△63
会計方針の変更を反映 した当期首残高	69,014	96,265	1,380,376	△91,040	1,454,615
当期変動額					
剰余金の配当			△102,541		△102,541
親会社株主に帰属する 当期純利益			73,371		73,371
自己株式の取得				△36,875	△36,875
自己株式の処分		4		5	9
自己株式の消却		△4	△84	88	—
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)					—
当期変動額合計	—	—	△29,254	△36,782	△66,036
当期末残高	69,014	96,265	1,351,122	△127,822	1,388,579

	その他の包括利益累計額				非支配株主 持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	9,111	△6,677	△19,337	△16,903	7,371	1,445,146
会計方針の変更による 累積的影響額						△63
会計方針の変更を反映 した当期首残高	9,111	△6,677	△19,337	△16,903	7,371	1,445,083
当期変動額						
剰余金の配当						△102,541
親会社株主に帰属する 当期純利益						73,371
自己株式の取得						△36,875
自己株式の処分						9
自己株式の消却						—
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)	△4,053	△19,931	7,408	△16,576	394	△16,182
当期変動額合計	△4,053	△19,931	7,408	△16,576	394	△82,218
当期末残高	5,058	△26,608	△11,929	△33,479	7,765	1,362,865

3. 連結注記表

連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数および主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 35社

主要な連結子会社の名称

FANUC America Corporation	FANUC Europe Corporation
KOREA FANUC CORPORATION	TAIWAN FANUC CORPORATION
FANUC INDIA PRIVATE LIMITED	SHANGHAI-FANUC Robomachine CO., LTD.
ファナックパートロニクス株式会社	ファナックサーボ株式会社

子会社のうち株式会社ファナックロボット小屋他は連結の範囲に含まれておりません。

これら非連結子会社の総資産、売上高、純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等はいずれもそれぞれ小規模であり、全体としても連結計算書類に重要な影響を及ぼしておりません。

(連結範囲の変更)

FANUC AUTOMATION d. o. o. Beograd については、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用関連会社 2社

会社名：BEIJING-FANUC Mechatronics CO., LTD.

SHANGHAI-FANUC Robotics Co., LTD.

適用外の非連結子会社および関連会社（株式会社ファナックロボット小屋他）の純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等はいずれもそれぞれ小規模であり、全体としても連結計算書類に重要な影響を及ぼしておりません。

3. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

(イ) 有価証券

その他有価証券

(時価のあるもの)

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

(時価のないもの)

移動平均法による原価法

(ロ) 棚卸資産

主として個別法および総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）であります。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産

主として定率法によっております。ただし、当社および国内連結子会社については、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法を採用しております。

(ロ) 無形固定資産

主として定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ) アフターサービス引当金

当社商品のアフターサービス費用の発生額を売上高と期間対応させるために、過去の実績値を勘案し計上しております。また、特定の案件については個別に必要な見込額を検討して計上しております。

(4) その他連結計算書類の作成のための重要な事項

(イ) 退職給付に係る会計処理の方法

・退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

・数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

(ロ) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産および負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、為替差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(ハ) 消費税等の会計処理の方法

税抜方式によっております。

会計方針の変更

（国際財務報告基準第 16 号「リース」の適用）

国際財務報告基準を適用している子会社は、当連結会計年度より、国際財務報告基準

第 16 号「リース」（以下「IFRS 第 16 号」という。）を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産および負債として計上することとしました。IFRS 第 16 号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を当連結会計年度の期首の利益剰余金に計上しております。なお、当該会計基準の適用が連結計算書類に及ぼす影響は軽微であります。

（米国財務会計基準審議会会計基準編纂書第 606 号「顧客との契約から生じる収益」の適用）

米国会計基準を適用している子会社は、当連結会計年度より、米国財務会計基準審議

会会計基準編纂書第 606 号「顧客との契約から生じる収益」（以下「ASC 第 606 号」という。）を適用しております。これにより、約束した財又はサービスが顧客に移転された時点で、当該財又はサービスと交換に利益を得ると見込む対価を反映した金額で、収益を認識しております。ASC 第 606 号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を当連結会計年度の期首の利益剰余金に計上しております。なお、当該会計基準の適用が連結計算書類に及ぼす影響は軽微であります。

連結貸借対照表に関する注記

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 365,485 百万円 |
| 2. 保証債務残高 | 11 百万円 |
| 従業員住宅ローンに対する債務保証を行っております。 | |

連結損益計算書に関する注記

減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失（百万円）
東京都 千代田区他	遊休資産	建物及び土地	1,973
計			1,973

遊休資産について今後の使用が見込まれないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は主に正味売却価額により測定しています。正味売却価額は不動産鑑定評価基準に準ずる方法等により評価しています。

連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類および総数
 普通株式 204,031,841株

2. 配当に関する事項
 (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	78,486 (35,002)	404円92銭 (180円58銭)	2019年3月31日	2019年6月28日
2019年10月28日 取締役会	普通株式	24,055	125円35銭	2019年9月30日	2019年12月2日
計		102,541			

(注)()内は、うち特別配当

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの
 2020年6月26日開催予定の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案いたします。
- ① 配当金の総額 33,502百万円 (うち特別配当 13,593百万円)
 - ② 1株当たり配当額 174円65銭 (うち特別配当 70円86銭)
 - ③ 基準日 2020年3月31日
 - ④ 効力発生日 2020年6月29日
- なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取り組み方針

当社グループは、所要資金を全て自己資金により充当し、外部からの調達は行っておりません。また、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

外貨建預金は為替の変動リスクに晒されております。営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建の営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。有価証券は、容易に換金可能でありかつ価格変動について僅少なリスクしか負わない3ヶ月以内の譲渡性預金であります。投資有価証券は主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク (取引先の契約不履行等に係るリスク)

当社グループは、営業債権について、債権管理規定に従い、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

② 市場リスク (為替等の変動リスク)

当社グループは、外貨建預金について、定期的に通貨別の換算額を把握し、継続的にモニタリングすることによって管理しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体 (取引先企業) の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注2参照）。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額(*)	時価(*)	差額
(1)現金及び預金	405,861	405,861	—
(2)受取手形及び売掛金	85,266	85,266	—
(3)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	145,425	145,425	—
(4)支払手形及び買掛金	(26,974)	(26,974)	—
(5)未払法人税等	(9,270)	(9,270)	—

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

有価証券は譲渡性預金であり、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、投資有価証券は株式であり、時価は取引所の価格によっております。

なお、有価証券及び投資有価証券は其他有価証券として保有しており、これに関する連結貸借対照表計上額と取得原価との差額は以下のとおりです。

（単位：百万円）

	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原 価を超えるもの	株式	18,392	12,443	5,949
	小計	18,392	12,443	5,949
連結貸借対照表計上額が取得原 価を超えないもの	株式	333	489	△156
	譲渡性預金	126,700	126,700	—
	小計	127,033	127,189	△156
合計		145,425	139,632	5,793

負債

(4) 支払手形及び買掛金、並びに(5)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

非上場株式等（連結貸借対照表計上額 64,612百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	405,861	—	—	—
受取手形及び売掛金	85,266	—	—	—
有価証券及び投資有価証券 其他有価証券のうち満期があるもの	126,700	—	—	—
合計	617,827	—	—	—

1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産	7,064円22銭
1 株当たり当期純利益	381円89銭

重要な後発事象

(自己株式の消却)

当社は2020年4月24日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議しました。

- | | |
|-----------------|--|
| (1) 消却する株式の種類 | : 当社普通株式 |
| (2) 消却する株式の数 | : 2,109,744株
(消却前発行済株式総数に対する割合 1.03%) |
| (3) 消却予定日 | : 2020年5月29日 |
| (4) 消却後の発行済株式総数 | : 201,922,097株 |

4. 株主資本等変動計算書

〔 自 2019年4月1日
至 2020年3月31日 〕

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計
当期首残高	69,014	96,057	—	96,057
当期変動額				
圧縮記帳積立金の取崩				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
自己株式の処分			4	4
自己株式の消却			△4	△4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	69,014	96,057	—	96,057

	株主資本					
	利益準備金	利益剰余金				利益剰余金 合計
		研究開発 積立金	圧縮記帳 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	8,252	311,800	40	303,580	466,908	1,090,580
当期変動額						
圧縮記帳積立金の取崩			△2		2	—
剰余金の配当					△ 102,541	△ 102,541
当期純利益					54,697	54,697
自己株式の取得						
自己株式の処分						
自己株式の消却					△ 84	△ 84
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	—	—	△2	—	△ 47,926	△ 47,928
当期末残高	8,252	311,800	38	303,580	418,982	1,042,652

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△ 91,040	1,164,611	8,853	8,853	1,173,464
当期変動額					
圧縮記帳積立金の取崩		—			—
剰余金の配当		△ 102,541			△ 102,541
当期純利益		54,697			54,697
自己株式の取得	△ 36,875	△ 36,875			△ 36,875
自己株式の処分	5	9			9
自己株式の消却	88	—			—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			△ 4,121	△ 4,121	△ 4,121
当期変動額合計	△ 36,782	△ 84,710	△ 4,121	△ 4,121	△ 88,831
当期末残高	△ 127,822	1,079,901	4,732	4,732	1,084,633

5. 個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準および評価方法
 - 子会社および関連会社株式
移動平均法による原価法
 - その他有価証券
(時価のあるもの)
期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）
 - (時価のないもの)
移動平均法による原価法
2. 棚卸資産の評価基準および評価方法
 - 製品・仕掛品・・・個別法および総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）
 - 材料・・・・・・・・最終仕入原価法
 - 貯蔵品・・・・・・・・先入先出法による原価法
3. 固定資産の減価償却の方法
 - ① 有形固定資産
定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法）を採用しております。
 - ② 無形固定資産
定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
4. 引当金の計上基準
 - ① 貸倒引当金
売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
 - ② アフターサービス引当金
当社商品のアフターサービス費用の発生額を売上高と期間対応させるために、過去の実績率を勘案し計上しております。また、特定の案件については個別に必要見込額を検討して計上しております。
 - ③ 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。
退職給付引当金および退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。
 - (1) 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - (2) 数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法
数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌期から費用処理しております。
過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。
なお、未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なります。
5. 消費税等の会計処理
消費税等の処理は税抜方式によっております。

貸借対照表に関する注記

- | | |
|---------------------------|------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 335,546百万円 |
| 2. 保証債務残高 | 11百万円 |
| 従業員住宅ローンに対する債務保証を行っております。 | |

3. 関係会社に対する金銭債権および金銭債務

短期金銭債権	20,909 百万円
短期金銭債務	1,246 百万円
長期金銭債権	1,505 百万円

損益計算書に関する注記

1. 関係会社との取引

売上高	218,227 百万円
仕入高等	10,957 百万円
営業取引以外の取引高	28,769 百万円

2. 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失（百万円）
東京都 千代田区他	遊休資産	建物及び土地	1,973
計			1,973

遊休資産について今後の使用が見込まれないため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該資産の回収可能価額は主に正味売却価額により測定しています。正味売却価額は不動産鑑定評価基準に準ずる方法等により評価しています。

株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類および株式数

普通株式	12,205,848 株
------	--------------

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

退職給付引当金	9,242 百万円
減価償却費	11,174 百万円
未払事業税	451 百万円
未払費用	3,646 百万円
投資有価証券	987 百万円
その他	10,336 百万円
繰延税金資産小計	35,836 百万円
評価性引当額	△2,300 百万円
繰延税金資産合計	33,536 百万円

繰延税金負債

前払年金費用	△2,874 百万円
その他有価証券評価差額金	△1,044 百万円
その他	△49 百万円
繰延税金負債合計	△3,967 百万円
繰延税金資産の純額	29,569 百万円

関連当事者との取引に関する注記

子会社および関連会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	ファナック アメリカ コーポレーション	(所有) 直接100%	当社商品の 販売	F A・ロボット・ ロボマシンの販売	45,377	売掛金	3,350
子会社	ファナック ヨーロッパ コーポレーション	(所有) 直接100%	当社商品の 販売	F A・ロボット・ ロボマシンの販売	51,712	売掛金	2,803

取引条件および取引条件の決定方針等

(注1) 一般的な市場価格を勘案し、取引価格を決定しております。

(注2) 取引金額および期末残高には消費税等は含まれておりません。

1株当たり情報に関する注記

1株当たり純資産 5,654円25銭

1株当たり当期純利益 284円69銭

重要な後発事象

(自己株式の消却)

当社は2020年4月24日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議しました。

- (1) 消却する株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 消却する株式の数 : 2,109,744株
(消却前発行済株式総数に対する割合 1.03%)
- (3) 消却予定日 : 2020年5月29日
- (4) 消却後の発行済株式総数 : 201,922,097株